

阿嘉島臨海研究所の 2010 年 (平成 22 年)

The year of 2010 at AMSL

保坂三郎*1

熱帯海洋生態研究振興財団理事長

岩尾研二

阿嘉島臨海研究所

S. Hosaka*1・K. Iwao

*1 E-mail: saburo@amsl.or.jp

この5、6年、見学や視察、相談などで阿嘉島臨海研究所を訪ねてくる人たちが増えているように感じます。私たちのもっている知識や研究成果をお話するのは、さんご礁生態系の重要性を啓発するために大切なことなので、研究所の仕事の柱の一つと位置づけて、できるだけ対応するように努めていますが、研究や調査もあるので、残念ながら全ての人に十分なことができないのが現状です。しかし、さんご礁や私たちの活動に興味をもってもらうのは、率直に嬉しいことですし、そうした関心の高まりが、さんご礁の保全につながることは間違いないでしょう。2010年4月に環境省が策定した「サンゴ礁生態系保全計画」(http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=15568&hou_id=12430)にも「(保全についての)ひとりひとりの主体的な行動を促すためには、サンゴ礁生態系の保全と持続可能な利用の重要性を社会に浸透させることが重要」と書かれています。そして、そこには「学校を含めた地域コミュニティでの環境教育や国民への広報活動、エコツーリズムの推進などの普及啓発を推進していくことが必要」で、そのためには「人と自然との関わりや重要性について分かりやすく解説できる人材の役割が重要であり、その人材を育成していくことも必要」とあります。まったく同感で、今後さらに真摯に取り組まなければならないと思います。そして、啓発や教育は、一般の人たちに対してだけでなく、行政にかかわる人たちに対しても同じかそれ以上に必要だとも思います。一般の人たちの思いが高まったとしても、それを具体的な方策として整えるのは行政の人たちで、そこにさんご礁についての関心と知識が実感としてなければ、とんちんかんな方針に

なりかねませんし、決まった方針でも継続的な実行はおぼつかないかもしれません。私たちの研究所には、国や県などで行政にたずさわる人たちもたくさん訪ねて来られます。私たちもますます努力しなければなりません。

保全のための環境教育と言えば、阿嘉島臨海研究所も協力して毎年行っている阿嘉小学校の子供たちのサンゴ産卵観察会を2010年も実施しました。例年は自然群体を対象にするのですが、今回は研究所で卵から育てて移植したウスエダミドリイシの産卵を観察しました。やや深い場所の群体でしたが、密生するように移植したものがいくつも産んだので、子供たちや付き添いの保護者の方たちにはいつも以上に感激してもらえたようです。2004年、2005年、2006年に産まれたサンゴは、この時その他にも多数産卵し、昨年考えたとおり、この種は誕生から4年で成熟することが確かめられました。さらに、その移植サンゴの卵と精子を受精させて幼生をつくり、稚サンゴを作出することにも成功しました。つまり、人の手で作ったサンゴ群集が、次世代を生み出したのです。当たり前のような出来事ですが、これは、移植サンゴから生じた子孫が周辺に拡がり、サンゴ群集やさんご礁生態系を拡大させることができることを示す重要な事実です。卵から育てて、今や大きいものでは直径40cmにまで成長したサンゴが、魚やカニのすみかとなり、子供たちの教材となり、さらに次世代を産み出しているのです。今後、さらにこのサンゴ群集の価値は高まっていくでしょう。

こうした活動が行え、いくつもの成果が得られたのは、日本財団をはじめとして、たくさんの人たちや組

織にご助成とご協力をいただいたおかげにほかなり 発活動を発展させていきたいと考えています。さらな
ません。すべての方々に深く感謝いたします。これま るご助力をいただければ幸いです。
での成果の蓄積を活かしながら、2011 年も研究や啓

2010 年（平成 22 年）阿嘉島臨海研究所の 1 年間の動き

List of research activities at AMSL by visitors and staff members in 2010

●主な利用者と研究課題など（敬称略）

- 1 月 「海洋環境での製鋼スラッグの利用技術開発／サンゴ礁の経済的価値分析」足立芳寛ほか（東京大学大学院工学系研究科）：3 月にも実施
- 3 月 「ミドリイシ着生誘導バクテリアの解析」服田昌之ほか（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科）：5-6 月にも実施
- 「ヒトデの自切と海洋系状菌の採集」鶴飼和代ほか（東北薬科大学薬学部）
- 「飼育および野外の枝状ミドリイシの形態変異と遺伝的多様性について」山本広美ほか（沖縄美ら海水族館）
- 3 月 26～31 日、阿嘉島臨海研究所の海外調査として、保坂三郎理事長、大森 信所長、谷口洋基研究員が加わって、フィリピン ビサヤ地方の海洋保護区視察調査を行った。
- 5 月 「温暖化影響要因調査」立田 穰（電力中央研究所）ほか：8、12 月にも実施
- 6 月 プーケット（タイ）で行われた第 2 回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウムに大森所長が出席し、ミニシンポジウム「サンゴ礁の修復」でコンビナーと座長を務めた。
- 7 月 「ピコプランクトンの収集と多様性解析に関するワークショップ」河地正伸（国立環境研究所）ほか
- 8 月 「Visual ecology of box jellyfish」Anders Garm（University of Copenhagen, Denmark）ほか
- 9 月 「阿嘉島沿岸域における卵・精子分散に関わる流動調査」河野時廣ほか（東海大学生物理工学部）
- 10 月 「阿嘉島周辺海域におけるサンゴのストレス応答状況の把握および水質環境調査」大城洋平ほか（沖縄県衛生環境研究所）
- 「観光活動によるサンゴ礁生態系への影響に関する研究」豊島淳子（東京工業大学大学院情報理工学研究科）
- 12 月 「JICA サンゴ礁モニタリング能力向上プロジェクト」Yimnang Golbuu（PICRC；JICA 研修）ほか

●その他の主な来所者（来所日順、敬称略）

鹿田正一ほか（水産土木建設技術センター）、阿嘉小学校児童、阿嘉幼稚園園児、田窪一男（NHK 沖縄放送局）、中井 綾（徳島大学）、中西 豪（水産庁漁港漁場整備部）ほか、田端重夫（いであ（株））、池内賢二（日本財団）、小西豊文（大阪成蹊短期大学）、勝越清紀ほか（いであ（株））、山田小須弥（筑波大学）、岡 里恵ほか（コニシ（株））、近畿大学文化会潜水部、鈴木 款（静岡大学）ほか、吉村慶信（東京都立中野工業高校）、古堅好美（東京工業大学大学院）、伊藤敬文（チッソ（株））、山里祥二（NPO 法人コーラル沖縄）、高橋由浩ほか（（株）エコー）、鹿熊信一郎（沖縄県八重山農林水産振興センター）、千葉日比魚（Office Big Bird）、久田友弘ほか（沖

縄県文化環境部)、山里 望ほか(国立沖縄青少年交流の家)、寺内 聡ほか(環境省自然環境事務所)、萩野菜穂子ほか((株)スローハンド)、遠藤 晃(南九州大学)、国立沖縄青少年交流の家講演会一行、間野伸宏ほか(日本大学)、阿嘉小中学校教員、東京海洋大学永井宏史研究室一行、中部理科教育研究会一行、家中 茂(鳥取大学)、北野倫生((株)エコー)、下條 武(沖縄県農林水産部)、小林文男((株)ワールド設計)、座間味中学校職場見学一行、下地 寛(沖縄県文化環境部)ほか、藤原秀一(いであ(株))ほか、大内一之(東京大学)ほか、谷川淑郎(北海道余市郡)、慶留間小学校児童、沼田圭司(理化学研究所)、梅津健夫(水産庁漁港漁場整備部)ほか、木村 匡(自然環境研究センター)ほか

●AMSL 刊行物

「みどりいし」No. 21、「アムスルだより」No. 101-106

●発表論文等

Edwards A, Guest J, Rinkevich B, Omori M, Iwao K, Levy G, Shaish L (2010) Evaluation costs of restoration. In: Edwards A (ed) Reef Rehabilitation Manual. Coral Reef Targeted Research & Capacity Building for Management Program, St Lucia, Australia. pp113-128

Guest J, Heyward A, Omori M, Iwao K, Morse A, Boch C (2010) Rearing coral larvae for reef rehabilitation. In: Edwards A (ed) Reef Rehabilitation Manual. Coral Reef Targeted Research & Capacity Building for Management Program, St Lucia, Australia. pp73-98

Iwao K, Omori M, Taniguch H, Tamura M (2010) Transplanted *Acropora tenuis* (Dana) spawned first in their life 4 years after culture from eggs. Galaxea, Journal of Coral Reef Studies 12: 47

Kitamura M, Omori M (2010) Synopsis of edible jellyfishes collected from Southeast Asia, with notes on jellyfish fisheries. Plankton & Benthos Research 5(3): 106-118

大森 信 (2010) 海の生物多様性: 貴重なサンゴ礁を護るために. 三田評論 2010・11: 26-31

大森 信 (2010) 沖縄のサンゴ礁と海洋保護区: 果たして周辺漁場にスピルオーバー [spillover] は期待できるか. 漁港 52(3/4): 33-37

大森 信 (2010) サンゴ礁を破壊する観光開発. Ship & Ocean Newsletter (243): 2-3

大森 信 (2010) 「中尾ら (2009) 日本のサンゴ被度データベースの作成と分析. 日本サンゴ礁学会誌 11: 109-129」に対するコメント. 日本サンゴ礁学会誌 12: (印刷中)

Omori M (2010) A breakthrough in coral reef rehabilitation! Infofish International 6/2010: 59-63

Omori M (2011) Degradation and restoration of coral reefs: experience in Okinawa, Japan. Marine Biology Research 7: 3-12

大森 信・谷口洋基・小池一彦・L. M. Liao・保坂三郎 (2010) 日本のさんご礁水域に海洋保護区 (MPA) を設定するために: フィリピン、ピサヤ地域の海洋保護区を視察して考える. 日本サンゴ礁学会誌 12: (印刷中)

柳 研介・岩尾研二 (2010) キンチャクガニ類が保持するイソギンチャクの分類学的研究. うみうし通信 (68): 2-4